

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 25 日現在

機関番号：33906

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770048

研究課題名(和文) 東アジアにおける明王圖像の形成と変容に関する研究

研究課題名(英文) Study on Formation and Transformation of the image of Vidyarajas in the East Asia

研究代表者

見田 隆鑑 (MITA, Takaaki)

椋山女学園大学・文化情報学部・准教授

研究者番号：30634365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では不動明王をはじめとする明王という密教尊像がインドから中国を經由して日本に伝わり、また国内で中央から地方へと信仰が伝播していく過程でその圖像がどのように変化していったのかを検討していく上で必要な調査を国内の彫像作例を中心に実施し、その成果の一部を学术论文の形で報告した。また、本研究の中で「デジタル明王圖像集」という明王像に関するデジタルアーカイブサイトを製作し、これまでの調査で撮影した明王像の写真資料や、研究の過程で収集した不動明王を中心とする経典・儀軌、修法次第などの聖教類をこのサイトで公開し、情報の共有化を図った。サイトのデータは今後も継続して公開作業を進めていく計画である。

研究成果の概要(英文)：In this study, we considered about iconographic modifications of Myoo from India to East Asia, especially about iconographic modifications in Japan. We carried out investigations into statues of Myoo in Japan, and reported some of the results as academic papers. Furthermore, we created a digital archive site about Myoo called "Digital Myoo Image Collection", and published photographs of statues and Sutras and Other Scriptures collected in this study. We plan to continue this Publishing work in the future.

研究分野：日本・東洋美術史

キーワード：明王 デジタルアーカイブ 密教圖像 密教美術 不動明王 五大明王 忿怒尊像 修法次第

1. 研究開始当初の背景

初期・中期密教の明王像、あるいは明王形尊像の中には、国内外ともに未だ尊名が確定できない作例が存在する。特に国内では地方の作例や山岳信仰と関わる尊像の中にそのような事例が多い。これらが地方における土着化や山岳信仰における日本古来の神祇信仰と密教との融合の中で形成された日本独自の異形像なのか、それとも大陸から受容した図像およびその図像をあらわす尊像に対する儀礼を典拠とするものなのか明らかにしていく必要がある。また、こうした尊名同定の課題は、奈良時代の初期密教の忿怒尊像でもみられるものであり、これらの解明も空海帰朝以前の日本における明王形像や忿怒尊像に対する信仰の姿、中期密教を受容する日本仏教の土壌を考える上で重要な課題と考える。このような中で、国内に現存する実作例や白描図像、経典・儀軌の記述との比較検討だけでは解釈しきれない尊像については、大陸に存在した多様な明王図像の存在を理解するとともに、密教の正当な血脈の中での図像継承だけでなく、そこから派生して生成された図像、地域の信仰と融合し、土着化するなかで形成された図像の流れについても理解する必要があるように思われた。

特に現状の尊名同定は、日本で平安時代後期以降に構築された図像集を背景とする尊像解釈やその枠組みの中での解釈に止まっているように感じられることから、本研究では、東アジア地域の中で最も遺例を残す国内の作例の調査研究を基点として、東アジア全体に及ぶ現存作例に基づく明王図像に関するデータベース、およびそれに基づくデジタルアーカイブを構築することを通して現代版の明王図像集を作成し、汎アジア的な視点からその多様なイメージの全体像を捉えることにより、インドを起源とする明王図像の形成と展開の様相について、国内外各地域の明王像の姿とその信仰の姿を明らかにしていくことができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、国内に現存する初期・中期密教の明王像の調査研究を基点としながら、東アジア地域に現存する明王像および明王形の尊像、ヒンドゥー教やゾロアスター教など他宗教の神像との比較研究を行うことを通じて、インドに起源をもつ明王のイメージがどのように形成されたのかを明らかにすることを目的とする。また、日本への伝播の過程における各地域での土着化、日本においても中央から地方への図像の伝播とその土着化の考察から、国内外における地域固有の図像形成の様相を明らかにすることを目的とする。加えて、国内外の現存作例の網羅的な情報収集をもとに、初期・中期密教の明王図像

に関するデータベースを構築し、デジタルアーカイブの形で情報発信していくことを目指す。その目的は、国内外にどのような作品や資料が存在するかを研究者が共有し、網羅的に概観し、情報交換をできる場が存在すれば、当該分野の研究がより進展することが期待されると考えるからである。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するにあたって必要なのは、国内外の実地調査を通して、より多くの作品情報を収集することであり、収集した情報をデータベースとして整理することである。また、その中から許可を得られたものを中心にデジタルアーカイブを作成し Web 上に公開していくことである。本研究の実務的な作業はこの行程を繰り返していくことによって行われる。

調査や資料整理の過程で見出された特徴的な作品や図像要素については適宜検討し、考察を加え、その成果を論文として報告していく。また、実際の儀礼空間で用いられる修法次第や経典・儀軌に記される明王の姿も考察の対象とし、資料収集とその検討を行うとともに、本研究を通して得られた修法次第などについてはすべてデジタル化を行い、公開に支障のない資料に関しては、データベースの形でホームページ上に公開していくこととする。

4. 研究成果

本研究期間の中では、雑誌論文 9 件を投稿することができた。また、明王像に関するデジタルアーカイブサイト「デジタル明王図像集」を製作し、資料の公開を行うことができた。各年度の主な実施内容と成果は下記の通りである。

2013 年度は、国内の未調査の明王像の作例として茨城県城里町の宝幢院所蔵の降三世明王立像、岡山県・西大寺所蔵の厨子入五大明王像、不動明王坐像などの実地調査を行った。宝幢院像は足柄部分に墨書銘を残すとともに、この地域における鎌倉時代後半から南北朝時代の密教の受容を示す作品と捉えられるため、茨城県立歴史館で行われた特別展「常陸南北朝史 - そして動乱に中世へ」も観覧し、この地域の南北朝期の情報を集めた。西大寺所蔵の五大明王像は牛玉所殿の秘仏本尊であり博物館等に出展されたこともなく、作品そのものの情報も不明であったが、今回の調査を通じ採寸、撮影をはじめとする詳細な観察ができた。10 cm 程の江戸時代の作品ではあるが、比較的正確な図像に基づく作品であった。加えて、本年度は一つのテーマとして明王像や夜叉形像の装身具や着衣などに焦点をあて研究を行い、明王像に限らず十二神将像などの着甲表現も観察の対象とした。この内容をもとにした論文を投稿した。

この執筆に合わせて、大元帥明王や青面金剛、深沙大将等についても実作例、経軌や修法次第にあたり検討を加えた。また、『大正大蔵経』図像部所収の白描図像を中心に、明王図像のデジタル化を行い、データベース化する作業も行った。この白描図像を中心としたデータベースについては自身の研究用に整理したものであり、公開は行っていない。

2014年度は、国内の明王像を中心に実地調査ならびに博物館における展覧会の機会を利用した作品の観察調査を中心に研究を行った。実地調査および仏像の拝観では、宮城県登米市・大徳寺の木造不動明王坐像、新潟県津南町・正宝院（見玉不動尊）所蔵の木造軍荼利明王立像、木造大威徳明王像（ともに比叡山伝来）を含む五大明王像、奈良県橿原市・正覚寺の大威徳明王像などを行った。大徳寺に関しては映像作品の制作を行うとともに、その胎内仏を拝見する機会を得た。大徳寺像の映像作品についてはYoutubeならびに「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」のホームページで公開した。また、愛知県稲沢市を中心に行っている仏像の映像作品の撮影時に、稲沢市・法華寺では寺院が保管している破損仏の中から五大明王を構成したものと考えられる2体の明王像を確認することができた。この2体の作品について調査を行い、論文に報告した。また、本年度は「国宝 醍醐寺のすべて」展や「高野山の名宝展」をはじめ密教尊像が展示される機会に恵まれたため、上醍醐の五大明王像や金剛峯寺孔雀堂の孔雀明王像など、これまで実見できていなかった作品を詳しく観察することができた。これら実地調査と合わせて修法次第を含む文献資料の検討も行った。本年度は先の法華寺像に関する調査報告を含めた論文の他、昨年度調査を行った岡山県・西大寺の牛玉所権現として信仰される厨子入り五大明王像に関する論文を執筆した。牛玉所権現像の論文においては、五大明王の信仰と民間信仰との融合という点を意識して考察を行った。また、過去に現地調査を行いながらもこれまで活字化をしていなかったフランス、ギメ美術館所蔵・敦煌将来の「千手千眼観音曼荼羅図」の構成尊像に関する論文を執筆した。

2015年度は、主に国内の不動明王像の作例に見られる特徴的な髪型をあらゆる作品とそのような姿の不動明王像が造形化された背景について検討を試みた。実作例の調査・拝観としては、龍谷ミュージアムで開催された「聖護院門跡の名宝展」において兵庫・伽耶院の不動明王立像を拝観するとともに、本像のような焰髪状の頭髪表現をあらゆる図像の背景について経軌・図像集などをもとに検討した。また、千葉県内に見られる特徴的な頭髪処理をあらゆる平安時代の不動明王像として長昌寺の不動明王坐像を睦沢町歴史民俗資料館において特別観覧するとともに、南房総市の小松寺の不動明王立像、いすみ市の宝泉寺（小又井観音）の不動明王立像

も合わせて実地調査を行い、作品を詳しく確認した。秘仏となっており拝観ができない千葉市・大聖寺の不動明王坐像を除き、千葉県内の一連の作品に関しては詳細な情報を手に入れることができた。また、不動明王に関する修法次第に記述される図像的な特徴と実際の造形作品との関連性も検討し、自身が収集した『不動略次第』（文明2年写本）、『不動明王供養法』（享保5年写本）をはじめとした不動明王の修法次第の考察に基づく論文を投稿した。また、本年度はこれまでの調査を通して収集した作品の写真資料や研究の為に収集した修法次第などの画像やPDF ファイルを研究者及び一般利用者・閲覧者に公開するためのホームページ「デジタル明王図像集」を作成・開設した。

最終年度にあたる2016年度は資料整理と論文の執筆が中心となったが、前年度の調査をもとに千葉県内に伝わる不動明王の一図像についての考察を論文としてまとめるとともに、2013年度に調査を行いながら活字化ができていなかった茨城県城里町の宝幢院に安置される木造降三世明王立像について調査報告と図像検討を行った論文を投稿した。また、前年度に構築したホームページ「デジタル明王図像集」の内容の充実化を図り、自身が収集した修法次第などのデータを公開するとともに、過去の調査作品の中から書籍などであまり写真資料が公開されていない作品を中心に情報の公開を進めた。

本研究では当初行う予定であった海外の作品の調査を行うことができなかった点や、国内の作例でも特に絵画作品に関する調査が十分にできなかった点が反省点としてあげられるが、当初の研究背景や研究目的に沿う形で研究を進めることができた。

本研究を通して、初期・中期密教の明王の図像がインドからどのように変容したのか、また各地域でどのような変化が起こったのかに関する具体的な見通しが明らかにできたわけではないが、その過程を考えていく上で必要な情報収集は4年間の研究期間を得たことで、研究開始時よりも作業を進めていくことができたと言える。

また、研究当初の目的でもあったデジタルアーカイブを通じた明王図像に関する資料の公開に関しては、研究期間中に概ね予定通りの作業を進めていくことができた。資料の公開作業は今後も継続して行っていくものであり、更なる充実化を図っていきたいと考えている。国内外の実地調査に基づく資料収集、および聖教等の収集と公開も今後も継続して行い、当該分野の研究の推進に貢献していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 9件)

見田 隆鑑、「《調査報告》佐久島弁才天坐像について」、単著、平成 29 年 3 月、『新編西尾市史研究』、査読無、第 3 巻、pp.60-69

見田 隆鑑、「茨城県・宝幢院に安置される木造降三世明王立像について」、単著、平成 29 年 3 月、『びぞん』、査読無、No.95 pp.31-47

見田 隆鑑、「房総地方に伝わる不動明王の一図像に関する考察」、単著、平成 29 年 3 月、『椛山女学園大学研究論集』、査読無、第 48 号人文科学篇、pp.1-19

見田 隆鑑、「修法次第に記される不動明王の姿に関する一考察」、単著、平成 28 年 3 月、『椛山女学園大学研究論集』、査読無、第 47 号人文科学篇、pp.91-107

見田 隆鑑、「岡山県・西大寺の牛玉所殿に安置される厨子入り五大明王像について」、単著、平成 27 年 3 月、椛山女学園大学『文化情報学部紀要』、査読無、第 14 巻、pp.111-118

見田 隆鑑、「稲沢市・法華寺所蔵の 2 体の明王像について」、単著、平成 27 年 3 月、『椛山女学園大学研究論集』、査読無、第 46 号人文科学篇、pp.101-109

見田 隆鑑、「フランス・ギメ美術館所蔵「千手千眼観音曼荼羅図」について」、単著、平成 26 年 11 月、『びぞん』、査読無、93、pp.1-24

見田 隆鑑、「地域に伝わる仏像のハイビジョン映像化とその活用に関する研究」、共著、平成 26 年 3 月、『椛山女学園大学研究論集』、査読無、第 45 号 社会科学篇、pp.167-185

見田 隆鑑、「守門像などに見られる鬼面・獣頭、蛇を伴う装身具の表現に関する一考察—特に象頭皮の膝当てについて—」、単著、平成 26 年 3 月、『椛山女学園大学文化情報学部紀要』、査読無、第 13 巻、pp.139-154

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等
「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」
<http://bjvm.ci.sugiyama-u.ac.jp>
「デジタル明王図像集」
<http://bjvm.ci.sugiyama-u.ac.jp/vidya/>

6. 研究組織
(1) 研究代表者
見田 隆鑑 (MITA, Takaaki)
椛山女学園大学・文化情報学部・准教授
研究者番号 : 30634365